

TOPICS

1 「ヒューマンエラー対策」



「ヒューマンエラー対策」

要請した行為から逸脱した行為であり、安全工学や人間工学では事故原因となる作業員やユーザの過失を指すものであると説明。そして、無事故運転者と事故多発運転者の認知特性（交通場面の危険度評価およびアイカメラによる計測）に関する実験結果をもとに、事故反復者は、探索的、網羅的情報取得を行っている（危険とは関係ないものまで見ている）ので、事故につながる可能性を持った対象の発見が遅れると指摘した。さらに、安全運転のためには、もう一人の自分を頭の中に置き、その自分が自身の心や行動を絶えず監視して、行動をコントロールする「メタ認知」を行うことが必要であると述べた。

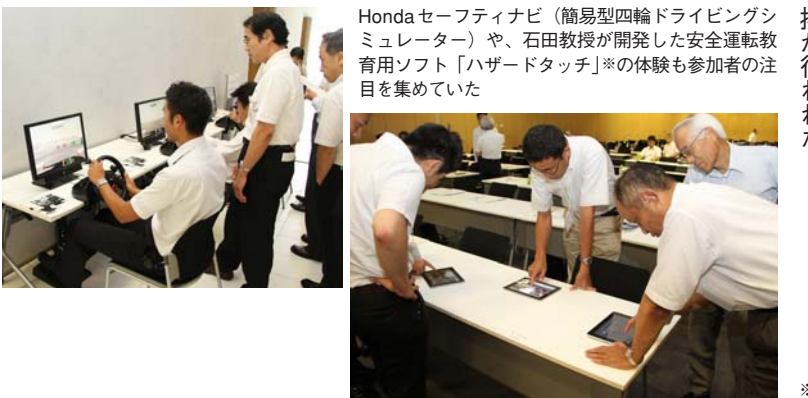
8月29日、本田技研工業(株)と和光ビル(埼玉県和光市)で「2012トラフィック・セーフティ・フォーラムin埼玉」が開催された(主催:交通教育センターレインボー埼玉・和光)。このフォーラムは、交通安全活動に取り組む企業や団体を対象に事故防止の施策などの情報交換を目的に行われており、この日は119団体から259名が参加した。

開会にあたり、永田春記(株)レインボーモータースクールの代表取締役社長が挨拶。来賓を代表して、吉岡光男・埼玉県警察本部交通部交通部長が挨拶を行った。

今年のテーマは「ヒューマンエラー対策について」。まず、石田敏郎・早稲田大学人間科学学術院人間情報科学科教授が「企業ドライバーのヒューマンエラー防止対策」について講演を行った。石田教授は「ヒューマンエラー」とは、システムが

講演終了後は、野村邦丸(株)文化放送編成局制作部専任部長がコーディネーターとなり、パネルディスカッションとなった。パネリストは石田教授と、加藤豊・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)メディカルカンパニー人事総務本部総務部長、二人事務部長、杉本達彦・埼玉警察本部交通部交通機動隊長補佐、ジョンソン(株)メディカルカンパニー人事総務本部総務部長、杉本達彦・埼玉警察本部交通部交通機動隊長補佐、加藤豊・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)メディカルカンパニー人事総務本部総務部長。

「仕事のやり方を変えるなど業務中、運転に集中できる環境をつくり出す努力をするべき」という意見が出されるなど、会場の参加者を交えて活発な意見交換が行われた。



Honda セーフティナビ(簡易型四輪ドライビングシミュレーター)や、石田教授が開発した安全運転教育用ソフト「ハザードタッチ」※の体験も参加者の注目を集めていた



野村邦丸・(株)文化放送編成局制作部専任部長
杉本達彦・埼玉警察本部交通部交通機動隊長補佐
加藤豊・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)メディカルカンパニー人事総務本部総務部長
石田敏郎・早稲田大学人間科学学術院人間情報科学科教授

※ハザードタッチ=携帯端末上に再生した交通場面の動画を使って、運転中に注意すべき箇所を素早く正しく発見できるように練習するためのソフト

2 親子で体験しながら、交通安全への理解を深めてもらう

9月2日、長野県松本市にあるトピーファスナー工業(株)が主催する「第1回笹賀地区親子交通安全教室」(共催:本田関連企業災害防止協議会信越支部)が開催された。この親子交通安全教室は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解していただくことを目的としている。翌週には、同様の教室が日信工業(株)(長野県上田市)でも開催された。トピーファスナー工業(株)での教室には松本市内に住む親子80名が参加した。最初に松本市の交通安全指導員が「あやとりひよこ編」を使って、子どもたちに基本的な交通ルールを説明。その後、屋外で人形を



トラックの内輪差による巻き込み事故の再現



ダミー人形を使った飛び出し事故の再現



運転席から見えない死角を親子で確認してもらう

松本市の交通安全指導員が「あやとりひよこ編」を使って子どもたちに指導



開会式で主催者を代表して挨拶するトピーファスナー工業(株)取締役製造本部長の越野健さん

使った飛び出し事故と巻き込み事故の再現などが行われた。6歳のお子さんと来場した母親は「人形を使った飛び出し事故の再現には驚きました。子どもにも飛び出しの怖さがわかったようです」という。また、9歳のお子さんと参加した父親は「運転席から見えない死角を再確認できたことが良かった。子どもだけでなく、大人にも勉強になる内容でした」と感想を語ってくれた。

トピーファスナー工業(株)取締役製造本部長の越野健さんは「今日は多くの親子に交通安全の大切さを伝えることができました。今後も、他の関連企業と連携しながら活動を継続していきたい」と話す。

NEWS REVIEW

●Honda Cars 東京中央「夢のみち2012」出展 1 自転車シミュレーター体験会を開催

8月22日、23日の両日、新宿駅西口広場イベントコーナー(東京都新宿区)で開催された「夢のみち2012」(主催:共催:東京都道路整備保全公社・東京都建設局)のイベントに四輪販売会社のHonda Cars 東京中央が出展。Honda 自転車シミュレーターの体験会を行った。

会場には2台の自転車シミュレーターが設置され、イベントの来場者が販売店スタッフのアドバイスを受けながら自転車の安全運転について学んでいた。自転車シミュレーターを体験した人からは「自分が安全確認をしないで自転車に乗っていたことがよくわかった。これからは周囲(後ろ)を確認

してから、発進や右左折をしようと思う。勉強になった」と感想を語った。

同社では3台の自転車シミュレーターを導入し、かねてから都内の販売拠点で自転車の安全運転教室を実施している。同社取締役の安藤敦人法人営業部部長は「安全運転普及活動は販売会社の責務。自転車の事故が増えているなか、私たちができることを模索していました。多くの方に体験していただき、安全意識向上につながれば良いと思います」と話す。

今後、同社では東京都内の各市区町村でのイベントにも積極的に参加し、安全運転教室を開催していく予定だ。



イベントに訪れた幅広い世代の人々が自転車シミュレーターを体験した

TOPICS ③ 交通指導員の皆様に情報交換・共有の場を提供し、指導力の向上に役立ててもらおう

Hondaでは、地域で活躍している交通安全指導者の方々に相互の指導方法の確認や意見交換を通じて指導力の向上に役立ててもらおうことを目的に、全国各地で情報交換会や合同研修会を開催している。今回は8月21日に埼玉県、8月23日と24日に香川県および福島県で行われた内容を紹介する。

●南関東甲信越地区交通指導員情報交換会

主催：本田技研工業(株) 安全運転普及本部 埼玉普及ブロック

8月21日、本田技研工業(株)埼玉製作所(埼玉県狭山市)にて「南関東甲信越地区交通指導員情報交換会」が開催された。

情報交換会は南関東甲信越6地区の交通指導員が日頃の交通安全教室で実践している内容を演習していくという形で進められた(写真参照)。参加した交通指導員は「自分の力だけでは限界があるので、他地域の事例を学ぶことで指導の幅が広がります」と感想を語った。

情報交換会を視察した埼玉県警察本部交通部企画課の鈴木宏良係長は「皆さんの指導実演を拝見して、安全教育の重要性を再確認できました。皆さん自身が楽しんで安全教育を進めており、こうした姿勢が受講者に興味を持ってもらう上で大切だと実感しました」と総評を述べた。最後に、主催した埼玉普及ブ



埼玉県警察本部交通部企画課の鈴木宏良係長



情報交換会には埼玉県、東京都、千葉県、山梨県、新潟県から18名が参加



交通指導員同士による意見交換も設けられた



Hondaの交通安全教育プログラム「あやとりひよこ編」を活用して、幼児に歩行者が歩くべき場所をわかりやすく伝える(東京都三鷹市)



「みとこうもん」というキーワードを使って、高齢者に道路の安全な横断や、反射材の着用を啓発(埼玉県狭山市)



おとぎ話「おむすびころりん」をモチーフにして、幼児に飛び出しの危険を伝えるパネルシアター(千葉県多古町)

ロックの猪俣薫ブロックリーダー「今日は皆さんの交通安全に対する熱い想い、指導力のレベルの高さを感じることができました。今後も皆さんが交流できる場を提供できるようにしていきたいと思えます」と挨拶し、情報交換会は終了した。

●中国・四国地区交通安全指導員合同研修会

主催：本田技研工業(株) 安全運転普及本部 浜松普及ブロック・鈴鹿普及ブロック



交通指導員がひよこやパンダの着ぐるみを使って、幼児に道路を横断する際のポイントを伝える(写真上・岡山県倉敷市、写真下・香川県高松市)

8月23日、24日には香川県坂出市にあるホンダセーフティトレーニングセンター四国で「中国・四国地区交通安全指導員合同研修会」が開催され、2日間で16地区が交通安全指導の実演を行った(写真参照)。キャリアの浅い交通指導員からは「教材や指導例をたくさん見ることができて良かった。特に、ベテランの人の話し方は参考になりました」という声が聞かれた。

閉会式では千葉英雄・本田技研工業(株) 安全運転普及本部事務局長が「笑いと楽しさの中にも、しっかりと安全教育のポイントを見据えていた点が良かったと思います。また、受講者に強制するのではなく、納得して行動を変えてもらうという

情報交換の時間には指導に活用できる簡単な実験のやり方などを交通指導員同士で共有



合同研修会には岡山県、広島県、鳥根県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県、長野県から38名が参加



腹話術の人形が途中から人間になるという設定で「交通安全かくニンジャー」のダンスを披露(徳島県阿波市/海部郡)



高齢者に守ってほしいことを高齢者交通安全5則「まみむめも」として啓発(岡山県児島交通安全協会)



研修及び情報交換会には青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、栃木県、茨城県から32名が参加



高齢者向け安全教室では、冒頭に健康体操を実施。参加者の緊張をほぐしながら、交通安全に興味を持ってもらう(山形県尾花沢市/大石田町)



「あやとりひよこ編」のワークシートを加工し、雪の日の服装や道路歩行をわかりやすく解説(山形県朝日町)



参加者同士で情報交換をする時間も設けられた

閉会式では金沢一郎・本田技研工業(株) 安全運転普及本部教育機器課課長が「既存のツールを地域の実情に合わせて加工し、工夫を凝らした指導に感服しました。数々の素晴らしい実演に敬意を評します」と総評を述べ、研修及び情報交換会は終了した。

同じく8月23日、24日には福島県福島市のホテル福島グリーンパレスにおいて、「北関東・東北エリア交通指導員研修及び情報交換会」が開催され、2日間で北関東・東北エリア19地区の指導員32名による日頃の交通安全指導の実演と情報交換が行われた(写真参照)。参加した交通指導員は「他の地域の取り組みが分かる貴重な機会。教材の作り方や替え歌など、今回勉強した内容を活動に取り入れたい」と語った。

うちわを加工したツールを使って、幼児に道路横断時のポイントを教える(岩手県奥州市)



1つの箱で様々なイラストを表示できる手作りの「からくりボックス」は幼児の注目を集められる(栃木県矢板市)

